仲間と学ぶ　命を守る対策

― 熱中症対策・AED 講習会を実施しました ー

CoMed つくばの皆さん

約 20 分の全体講話

７月２８日（金）に CoMed つくば（筑波大学医学群の学生中心に構成されている医療系サークル）筑波大学医学類の 11 人の医学生と指導医の下條信威先生においでいただき、救命活動や熱中症に関して学びました。

中学１年生から高校３年生で構成される歩く会実行委員の生徒と各部活動生徒の総勢 230 人が参加しました。

まず、熱中症対策と心肺蘇生法に関する基礎知識を全体講義で得てから、グループに分かれてアンブマン（模型）と AED を用いて演習を行いました。

心停止事故を想定したシミュレーション訓練

医学生による実演でお手本を示します

230 人の生徒が参加しました

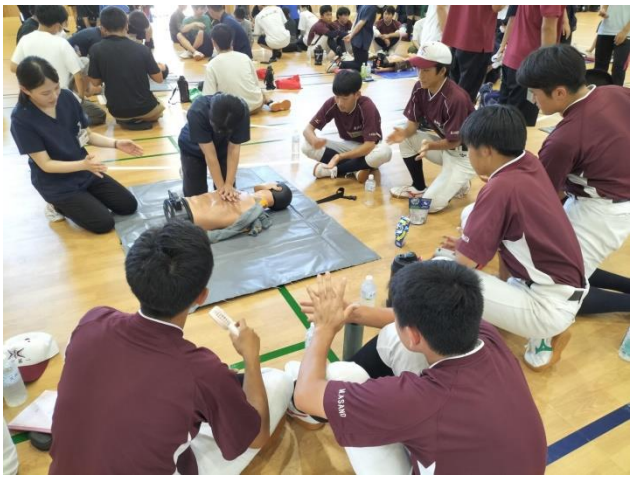
胸骨の位置を確認します

胸骨圧迫を体験しました

公益財団法人日本学校保健会が平成 30 年度に発表した「学校における心肺蘇生と AED に関する調査報告書」によれば、AED は日本の小学校の 99.9%、中学校の 99.8% に普及しています。

AED の設置が推進される一方で、総務省の調査によれば、一般市民が心停止者を目撃しても、心肺蘇生を行ったのは 57.4%、AED を使用したのはわずか 4.1%でした*。今回、AED の使い方や心肺蘇生法などの一次救命処置を学んだことは、卒業して社会に出てからも役立つ大切なスキルになることでしょう。

最後に、本校の AED 設置場所の再確認です。AED の配置は 2 カ所です。本城橋入口からグランドまでのおおよそ中央部に位置する、昇降口を入って右側（高校保健室近く）の壁に設置されています。もう一台は、校舎施錠後、24 時間誰でもアクセスできるよう、昇降口入口の屋外に担架とともに外壁に設置されています。



交代しながらリズミカルに
胸部圧迫を継続します

*参照：総務省消防庁「令和 4 年版　救急救助の現況」

AED の設置場所を確認しておきましょう